

自然を畏怖し、慢心や過信を戒める

本年は元日に能登半島で地震がありました。亡くなられた方にお悔やみを、被災者にお見舞いを心より申し上げます。この地震により、私は改めて自然とは何かと考えました。人類の歴史は自然災害を克服しようとした歴史でもあります。しかし、地震や土砂崩れ、水害は決して無くすことはできません。「畏怖」という言葉には、人間の力ではどうにもならない大きな力に対して、尊敬や崇拜の気持ちを込めて怖れるというニュアンスがあります。私たちは自然を畏怖する必要があると思います。そして、そこから「自然に向かい合い、備える」という発想がおのずと出てきます。こうした思いを、私は今年の仕事始め式で県職員に伝えました。県民の皆さまにも本号の特集を参考にして自然災害に備えていただきたいと切望します。

1月2日には羽田空港で航空機事故がありました。こちらは自然ではなく、人為的なミスが原因と言われています。ミスは慢心や過信から生じます。私たち県職員は県民の生命や財産を守るのが職務です。仕事始め式では「慢心や過信を戒めて」と訓示しました。県民の皆さまも事件事故に遭わないために慢心や過信にご留意ください。



奈良県知事
山下 真

毎月11日は人権を確かめあう日

人権 コーナー



ひかりちゃん てんいち先生

「髪を切った?」「髪型を変えた?」 を聞くことって?

相手を褒めたり励ましたりしたつもりがかえって、相手を傷つけたり怒らせたりしてしまった…そんな経験はありませんか?

先日、友人がこんな話をしていました。職場で、「『髪切ったよね?』と声をかけようとしたけれど、言えなかった。」理由は「言われた人が言葉以上のことを想像し、セクハラだと言われるかもしれないと思ったから。」とのことでした。

言葉は、今置かれている状況や状態などにより、解釈が加わるので、受け取り方がその時々で異なります。コミュニケーションには「こうすれば必ずうまくいく」という正解がある訳ではありません。だからといって「傷つけるかも」と、コミュニケーション自体をやめてしまうの

も違うのではないかとと思います。またこういった思いのために、会話のやりとりが少なくなるのは寂しいものではないでしょうか。

日差しの温かみを感じるが増え、出会いの時期が近づいてきます。喜び・期待・寂しさなどさまざまな気持ちを胸に抱きつつ新しい季節を迎える中で、相手の受け取り方は自分とは異なっていて当たり前と捉えた上で、相手のことを推し量って声をかけられたらなと、思いました。

今月のポスター



宇陀市立大宇陀小学校1年
なかたに まきこ
中谷 真希子さん



宇陀市立榛原小学校1年
きたわき がく
北脇 岳さん

※学校名・学年は作品作成時のものです。

アンケート & プレゼント

3月号のプレゼント

吉野山桜近藤の 葛餅 3種セット

近藤自慢の葛餅です。和三盆糖・こし餡・さくら餡と吉野本葛の絶妙ハーモニー。ぷるるん・もちもち食感をぜひ!



■商品のお問い合わせ先
吉野山桜 近藤 ☎0746-32-3018

デジタルに親しむきっかけに電子書籍版「県民だより奈良」を読んでみませんか。電子書籍版を読んだ感想をe古都ならで回答された方の中から抽選で10名にプレゼントが当たります!

回答・応募はこちらから



締め切りは
3月24日(日)

※3月1日以降応募できます。

※ご提供いただく個人情報は、プレゼントの発送にのみ使用させていただきます。
※当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。
※商品は吉野山桜 近藤から直接発送します。
※「県民だより奈良」への感想やご意見は引き続きハガキでも受け付けています。